

## 平成29年度第1回京都市図書館協議会摘録

- 日 時：平成29年11月17日（金）  
午前10時～12時
- 場 所：京都市生涯学習総合センター 5階第6研修室
- 出席委員：〔10名中8名出席〕
- 石川 一郎 委員  
岩佐 恭子 委員  
岩崎 れい 委員  
郭 昊 委員  
梶川 敏夫 委員  
河本 歩美 委員  
鈴木 美和 委員  
柳田 典子 委員（五十音順）
- 欠席委員 松田 晋 委員  
矢野 保美 委員（五十音順）
- 傍聴者：1名

### 1 開会

- (1) 出席委員紹介
- (2) 事務局紹介
- (3) 中央図書館長の挨拶
  - ・ 出版社の社長が図書館での文庫本の貸出をやめて欲しいというほど本が売れなくなってきた。世の中で読むという行為が非常に少なくなっており、出版社は苦境にあるようだ。
  - ・ 本が人間の生活から離れているということかと思われるが、これは非常に危険なこと。テレビなどを見ている脳はあまり活性化しないらしい。私たちは脳を活性化させながら、ものを考えるということで、文明・文化を築いてきた。
  - ・ そのような中、右京中央図書館では、毎日 2,000 人を超える人たちが来館し、本を読んでいる。その数は日本でも有数のものと自負しており、皆さんのお力添えで更に前進させていきたい。
- (4) 会長及び副会長の選出  
会長に岩崎委員を選出、副会長に柳田委員を選出

### 2 報告事項

事務局から、資料に基づき、以下の項目について報告した。

- (1) 京都市図書館の利用状況等の推移について
  - ・ 貸出冊数と入館者数はここ10年、インターネット予約開始（平成18年1月）

や右京中央図書館開館（平成 20 年 6 月）等もあり、年々伸びて平成 22 年にピークに達したものの、その後平成 23 年度から 3 年間微減傾向であった。

- ・ 平成 26 年 4 月から地域図書館で第 2 第 4 水曜日の開館を実施、同年 6 月から全館での開館時間 30 分繰り上げ、また平成 27 年度から新たに実施した「ブックリサイクル事業」の効果等で、平成 26 年度から 2 年連続で増加した。
- ・ しかし、昨年度は、施設の改修工事や停電などによる臨時休館のため延べ開館日数が減ったことが影響し、わずかながら減少となった。
- ・ 予約件数やブックメール便による運搬冊数はほぼ横ばいの状態で、読みたい本を予約し、身近な図書館に取り寄せて利用する利用形態が定着して来ていると考えられる。

## (2) 京都市図書館の平成 29 年度の取組状況について

### ア 4 つの中央図書館（中央・右京中央・伏見中央・醍醐中央）における土曜夜間開館の試行実施

- ・ 全館で平日の夜間開館を実施しているが、土・日・祝日については、午後 5 時閉館であり、開館時間の延長、特に土曜日の開館時間延長を望む声が利用者から寄せられていたことを受け、昨年度と今年度、夕方 5 時でも比較的まだ明るい時期の 4 か月間（28 年度：5～8 月、29 年度：6～9 月）、利用者の多い 4 中央館において、土曜日の開館時間を午後 7 時まで延長する取組を試行的に実施した。
- ・ 予算等の課題もあるが、多くの利用者が望める時期を見極めながら今後の方針を検討して行きたい。

### イ 府立図書館、市立芸術大学との連携、駅返却ポストの増設

- ・ 週 1 便であった府立図書館との物流を、平成 29 年 4 月から週 5 便に増便し、府内図書館との相互貸借のスピードアップを実現した。
- ・ 今年 11 月 10 日から、京都市図書館で借りた本を府立図書館に返却でき、府立図書館で借りた本を京都市図書館に返却できる相互返却サービスも開始した。
- ・ 今年 4 月より市立芸術大学との相互貸借サービスを開始した。館内閲覧限定だが、芸術大学が所蔵する専門的な資料を京都市図書館に取り寄せて閲覧でき、芸大の学生も大学図書館で京都市図書館の資料を閲覧できるようになった。
- ・ 地下鉄「市役所駅前」、「北大路」駅の返却ポストに続き、平成 29 年 11 月 1 日から阪急「烏丸駅」の地下通路に返却ポストを設置した。

### ウ システム更新

- ・ 図書館で使用しているコンピューターシステムは、5 年のリース期間満了により今年度更新を行う。更新を機に、以下の取組も行う。
- ・ 障害者差別解消法を念頭にホームページのアクセシビリティを重視し、音声読み上げソフトに対応する構成に改める。スマートフォンでの閲覧にも対応できる画面構成にする。
- ・ ホームページには読み終えた本のタイトルや、これから読みたい本を記録することができる「マイライブラリ」を新たに設置するとともに、要望の多い資料

の書影の表示，返却日お知らせメール機能の追加，セキュリティ強化などを行う。

- ・ システム更新にあわせ，視聴覚資料の貸出期間延長を可能にするとともに，障害のある方の予約件数を現在の10件までから20件までに増加する予定。

#### エ 文化庁移転を踏まえた文化芸術事業

- ・ 文化庁の京都への移転を踏まえ，京都市の各部署で文化都市・京都を盛り上げる様々な取り組みが実施される中，図書館でも所蔵する文化芸術関連資料を活用し，テーマ展示等を行っている。
- ・ 資料の展示以外では，4月に京都堀川音楽高校の協力の下，「0歳からの絵本コンサート」を4中央図書館で開催。4館とも約100名の参加があった。
- ・ 文学作品に出てくる地域の旧跡等を訪ねる取組や地域の方々の芸術作品展示なども行っている。

#### オ その他

- ・ 資料的価値が低くなった所蔵本や保管期間を過ぎた雑誌等を利用者に無償で譲渡する「ブックリサイクル」を平成27年10月から実施している。年3回（6月・10月・1月）実施しているが，お持ち帰りいただく本の冊数も回を追うごとに増え，図書館の行事として一定定着してきたと考えている。
- ・ また，今年度から雑誌付録の有効活用にも取り組んでいる。ブックリサイクルの際に自由に持ち帰りいただいたり，行事の参加者にプレゼントしたりしている。
- ・ 醍醐図書館で，認知症の方を対象に，昔の道具などを利用して脳を活性化させる回想法を取り入れた行事を行ったところ，参加者の反応がとても良く，病院関係者，図書館関係者など多方面からも好評を得た。

### (3) 第3次京都市子ども読書推進計画の取組状況について

#### ア 図書館のハード面での整備

- ・ 和式トイレしかない館が多くあったため，洋式に改修するなど快適なトイレ環境の整備を行っている。昨年度までに8館の整備・改修を行い，29年度は3館（岩倉・南・下京）で整備・改修を予定している。
- ・ 乳幼児連れの保護者が気兼ねなく図書館に来館できるよう，地域館14館の児童コーナーの改修を実施し，昨年度までに7館でコーナーの拡張や児童用書架の更新，授乳コーナーの設置等の整備を実施した。29年度は，岩倉，下京，南，向島図書館で整備を行う予定。

#### イ 出前事業専用車両「青い鳥号」による学校・園への出前事業の推進

- ・ 軽ワゴン車の後部座席に本棚を搭載した出前事業専用車両「青い鳥号」に約200冊の本を積みこみ，学校や幼稚園，児童館などへ読み聞かせやブックトーク等の出前事業を行っている。
- ・ 平成26年11月から稼働しており，27年度は115回，28年度は102回，今年度は10月末時点で45回稼働している。

#### ウ 乳幼児の保護者用読書ノートの作成・配布

- ・ 乳幼児の保護者の方を対象に，子どもの成長に合わせて，その時々でよく読ん

だ本を書き込める読書ノートを作成し、図書館等で配布している。

- ・ 保健センターで実施している8か月健診でも配布している。

#### (4) 学校図書館支援事業について

##### ア 学校でのブックトーク・読み聞かせなど

- ・ 学校からの依頼に基づき、図書館から学校に出向いて実施。

##### イ 学校団体貸出

- ・ 学校の学年ごとに、調べ学習用の資料40冊、読書活動用の資料200冊までを1か月間を目途に貸し出しするサービスを実施。

##### ウ 調べ学習をするための推薦図書リストの作成

- ・ 授業で実際に図書を使用した教員の意見を反映させて作成。
- ・ 完成したリストは学校間のネットワークを通じて全ての教員で共有している。

##### エ 全館におけるティーンズコーナーの充実

- ・ 中学生の不読率が高まる状況をなんとかしたいという思いから、数年前より取り組んでいるところであり、今年度はティーンズを対象とした図書館だより「ティーンズレター」を全館で作成、配布している。

##### オ 学校司書を対象とした研修会の実施

- ・ ワークショップ型の少人数制の研修会を取り入れて実施。内容は、ブックトーク入門編・応用編、読み聞かせ講座など。
- ・ 今年度は、中学校からの依頼を受け、新たにビブリオバトル講座を加えた。
- ・ 自分の好きな本について伝え合うゲーム感覚の書評合戦のビブリオバトルが、非常に今注目されている。中学校の国語の授業でもビブリオバトルに取り組む学校が増えている。ビブリオバトルは、研修の参加者からも好評で、これからも続けていきたい取り組みであると考えている。

### 3 報告事項に関する質疑応答

意見： 資料的価値が低くなった本等をブックリサイクルに回すという話があったが、どのように判断して回しているのか。

回答： 時間の経過とともに予約が入らなくなったベストセラーの複本。新しいものに買い替えた児童書でリサイクルとして活用できるもの。また、一つのテーマについてたくさんの著書が出版されるが、スペースの問題もあり、全て置けないため、選別してブックリサイクルなどに回すものもある。他には、保管期限の切れた雑誌などが主だったものである。

意見： リサイクルに回す本を判断されるのはどなたか。

回答： 司書。

意見： 文化庁が京都に移転するが、文化庁の所有している貴重な資料を活用させてもらう話は出ていないか。

回答： 今のところはない。

意見： 人件費などの制約がある中で図書館が実にさまざまな取り組みをしているのには

驚いた。

意見： 最近の大学生は、レポートの作成のための情報収集に図書を利用せず、ネットで済ますことが多くなっている。また、近頃、大学生の想像力の欠如を感じることもあるが、読書をすることで想像力がつくと思う。これからは若者にいかに図書を読ませるかということが大切であると思う。

意見： 市民の側から要望があったものについて、それを学ぶ場所の提供や、学びを支援する活動を実施することは考えているか。

回答： 今年の7月に上京区の市民グループが、右京中央図書館を会場として、同館が所蔵する郷土資料を使い、地域に古くから伝わる井戸について調べる学習会があった。学習会の場で新たに発生したレファレンスは、同館のレファレンスカウンターの職員も協力した。

この学習会で、市民が自分たちで調べることにやりがいを感じている姿を目の当たりにし、市民の知りたい要求にエネルギーを感じた。

市民のための図書館になるとは、利用者の学びたい気持ちを引き出して、図書館がそれを支えることであり、市民のレファレンス能力向上に寄与することも図書館の役割であることを再認識した。具体的なことは決まっていないが、そのような支援の取組ができないものかと考えている。

意見： ホームページに新たに、「マイライブラリ」が設置されるようだが、貸出記録は残るようになるのか。

回答： 個人情報保護の関係で貸出記録は返却と同時にすべて消えるので、自動的に残らない。

意見： 電子図書館サービスを導入する予定はあるか。

回答： 電子書籍のシステムや仕様の比較検討が必要であるとともに、導入・運営費用を必要とする割に、他都市で貸出資料の数値が伸びていない実態もあり、慎重に検討していく必要があるものと考えている。

意見： 文部科学省による学校図書館の蔵書数の基準となる図書標準達成率の調査で、京都府の数値がよくなかったようである。学校図書館の蔵書の構成も気になるが、学校図書館に関する取り組みを聞きたい。

(参考)

28年度 京都府 小学校 50.1% (47都道府県中 42位)、中学校 17.8% (46位)

(※ 京都市のみの数値は、小学校 65.7%、中学校 21.9%)

回答： 学校図書館において物語関係は充実しているものの、その他の図書が十分でない状況を知り、公共図書館として何かできることはないかと考えたことを契機として、現在、「調べ学習をするための推薦図書リスト作成」に取り組んでいる。

アクティブラーニングの重要性が言われる中、調べ学習のためにどのような本を用意するかが重要であるため、実際に授業で使ってみた教員の意見を反映させた図書リストを作成しており、学校間のネットワークを通じて、京都市の全校で見ることができるようになっている。

現在、教育委員会では学校図書館の充実に大変力を入れており、学校司書の数も

現在 137 名配置しているので、学校図書館もこれからよくなるものと思う。

意見： 学校図書館は充実してきているものの、学校司書と教員とが力をあわせる部分にはまだまだ課題があるように感じている。

学校司書にも学習計画を示して準備が必要な本が事前に分かるようにする等の工夫は学校長が意識してしないと難しいと思う。

これまで、学校図書館は読書のための図書館であって、調べ学習のための図書館になっていなかった。学校図書館の本は国語だけという教員の意識からまず変えていかないといけない。

教育委員会の学校指導課の指導主事が各校の学校図書館の指導に回っており、学校図書館はよくなって来ているとは思いますが、もうひと踏ん張りかと思う。

#### 4 協議事項

事務局から図書館の魅力向上に関連した以下の事項について説明した。

##### (1) 司書の専門性を活かした取組

###### ア 司書による書評の紹介

- ・ 昨年度 134 人の司書全員が 1 人 1 冊、とっておきのお薦め本を選び、大きなポスターにして全館で掲示する「司書のイチオシ！」を読書週間に実施した。
- ・ 今年度は「司書のかくし玉」と銘打ち、各館で大人向け 1 冊、児童向け 1 冊のお気に入り、隠れた名作を選びポスターやリストにして紹介した。
- ・ 本に関する知識が豊富な司書が本を薦める取組は好評で、来年度以降も継続していきたいと考えている。

###### イ レファレンスサービス

- ・ レファレンスサービスは重要な図書館サービスの一つだが、まだ認知度は低い。
- ・ 右京中央図書館では、「京都大百科事典的図書館」をコンセプトに、特に京都に関連する資料の収集や取り組んだ内容の公開などを積極的に進めている。
- ・ 国立国会図書館が提供するデジタル化資料送信サービスを積極的に活用したレファレンスを行い、調べた内容等も公開し、多くの方に閲覧いただいている。
- ・ 7 月には平安時代からの名水「滋野井（しげのい）」の井桁（いげた）を地域のシンボルとして保存しようとしてされている滋野学区の方々による勉強会のお手伝いを右京中央図書館で行った。

##### (2) 充実を期待する図書館サービス

###### ア シニア世代と図書館について

- ・ 日本は今後も総人口が減少する中で高齢者が増加し、さらに高齢化率が上昇するという推計になっている。図書館利用者も高齢者の割合が今以上に高くなっていくことが予想される状況を踏まえ、シニア層を対象にした取組を実施している。
- ・ 山科図書館では、生きるヒント、安心して生活するための知恵、長寿の秘訣などの資料を集めた「シニアコーナー」を、醍醐図書館では、認知症が心配な方、

認知症家族をお持ちの方などの悩みや疑問を解決するための本、啓発や相談窓口等に関するパンフレットを集めた「認知症コーナー」を設けている。

- ・ 醍醐中央図書館・醍醐図書館で、国の新オレンジプランに沿った取組として近隣の病院が行う「オレンジカフェ」に参加し、主に認知症の方を対象に絵本の読み聞かせやゲームなどを行っており、久世ふれあいセンター図書館では、地域包括支援センターとの共催で、読み聞かせや詩の音読、昔の写真を基に語り合う会を実施している。
- ・ 醍醐図書館の「回想法」を取り入れた取組は、昔の暮しや遊びについての図書館の本や、高齢者の方が昔使っていたと思われる洗濯板やお手玉を使い、認知症の方の思い出や意欲を引き出すもので、各方面から好評をいただき、担当者が東京や大阪で事例発表を行い、京都新聞でも取り上げていただいた。

#### イ 多文化サービスについて

- ・ 京都を訪れる外国の方が年々増加しているが、圧倒的に観光客が多く、留学生も多い。そうした中、図書館がどのようなサービスを提供すべきかを検討中。
- ・ 現在は、日本人向けの事業が多く、本来の意味での多文化サービスからは少し外れるが、留学生の方と交流する中で外国の文化を学ぶ取組として、中央図書館で平成25年度からスタートした「多言語おはなし会」がある。留学生が様々な言語で絵本を読んだり、あいさつ、遊び等を行ったりしている。
- ・ また、子ども向けのおたのしみ会で英語を取り入れたり、大人向けの英語を学ぶための行事で外国の方と交流を図ったりしている。

#### 5 協議事項に関する質疑応答

意見： 知的な趣味を楽しむなど、図書館を利用している高齢者の方が多いと思うので、シニアの方が楽しんだりうまく使えたりするような空間づくりを進めていかれるのは良いことであると思う。

図書館は今後もっと、地域包括支援センター等の専門機関との連携が必要になって来るのではないかと感じている。

意見： 中学生は部活など、大変忙しく、自発的に図書館に行くことは難しい。そもそも図書館に行ったことのない子どもも多いと思われる。図書館に行くことについて良い印象づけをしてもらえるような取り組みがあればよいと思う。

意見： 図書館では貸出カードを忘れると貸出をしてもらえないようだが、今の方は必ずスマホを持ち歩いているので、スマホで提示したバーコードを通せば貸し出せるシステムがあればいいと思う。

意見： 日本の大学図書館や公共図書館で、多文化サービスは、ほぼ行われていないのが現状である。

浜松市の図書館では、多文化共生都市ビジョンを掲げ、浜松市で暮らしている2万人の外国人を対象として、外国語の電子書籍を提供するサービスを導入する予定である。

京都市では8千人の留学生が勉強していて、外国人在留者が4万2千人ぐらい暮らしており、今後、電子図書館を京都市に導入することで、多文化サービスと両立できれば良いと思う。

意見： 今日の会場となっている京都アスニーから少し東へ行ったところに、平安時代、世の中に流布する図書を写し取り公開していた「一本御書所跡（いっぽんごしょどころあと）」、今でいう国会図書館のような施設があった。ここからすぐ近くの場合に昔大きな図書館があったというのは意外性がある面白と思うので、そういったことも活用していただけたらと思う。

意見： 最近、改革とか刷新とかという意味の「リノベーション」ということがテレビで取り上げられている。既存の施設をうまく利用して、子どもたちが集まって遊べる、あるいは学べる場所をつくる取り組みを東京の方でしているようである。

京都市でも、既存のものを工夫して、お金のかからない形で新たなものを創造していく、リノベーションの取り組みが出来れば面白いと思う。

意見： 最近のニュースで、建築家の安藤忠雄さんが、自主的に建設の費用を集めて、設計もして、大阪の中之島に子ども図書館を建てるという話が出ていた。寄付を集めて図書館を作り、最終的には行政で面倒を見るということのようである。

先の話であるが、寄付で図書館を建てることも流れによってはできないかと思う。

意見： 本日はたくさんの意見があった。小さな子どもから高齢者の方まで、また、日本人の利用者だけでなく留学生とか外国から来られて住んでおられる方々など、そういう方たちが満足できるような、あるいはもっと図書館を利用したいと思えるような取り組みとして、どのようなものがあるかということで、たくさんの意見があったかと思う。また、図書館の在り方を一度基本に戻って考えることが大切ではないかといった意見もあった。

図書館が本当に利用者にとって、真に欲しい図書館になっていくためには何をしていくのか。たくさんの発言があり、一度には対応できないとは思いますが、できることから手を付けていって、図書館の運営に反映していただければと思う。

回答： 意見をいただいたので、できるところから、少しずつであるが実現していきたい。

## 6 事務連絡

## 7 閉会